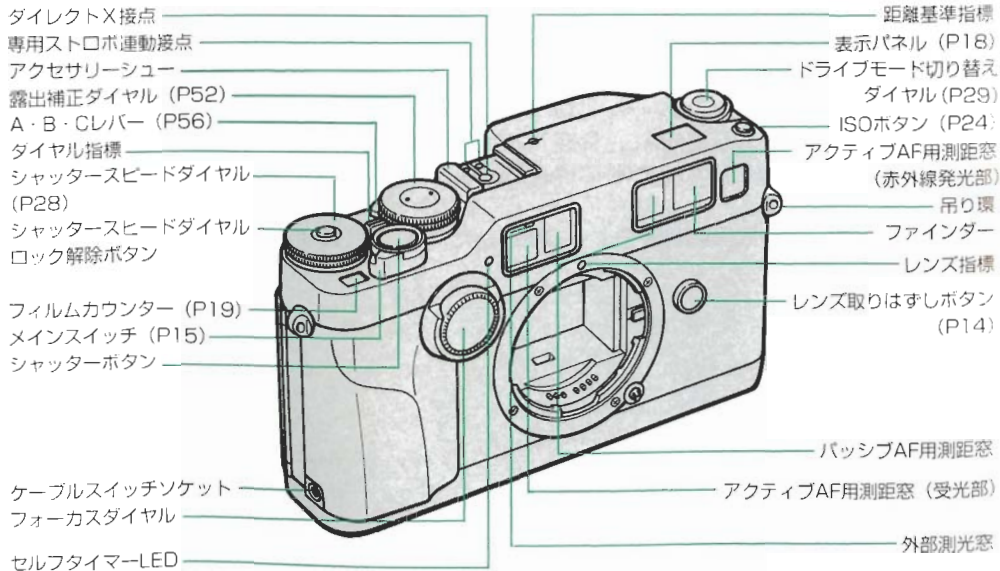
このたびは、コンタックス G2/G2D をお買い上げいただきありがとうございます。
このカメラは、「作品を作るカメラ」というCONTAXの思想を受け継ぎながら、一眼レフとは別の使いやすさを目指した、新しいコンセプトに基づく35mmフォーカルプレンシャッター式AFレンジファインダーカメラです。
TTL実絞り測光による絞り優先AE、最高1/6000秒までの高性能フォーカルプレンシャッター、最高約4コマ/秒の連続撮影など、コンパクトなボディに高機能を納めています。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取扱いで末永くご愛用ください。

この取扱説明書の説明内容は、コンタックスGマウントのプラナーT*45mm F2付G2で行っていますが、他のコンタックスGマウントカールツァイス交換レンズや、データバックGD-2を装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。コンタックスG2DにはデータバックGD-2が標準装備されています。データバックGD-2の取扱説明書を併せてお読みください。

- ホロゴン16mmF8をご使用のときは、必ず「ホロゴン16mmF8について」(P76)およびレンズの取扱説明書を併せてお読みください。

この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

各部の名称

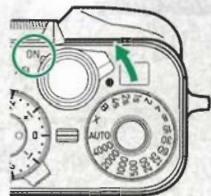
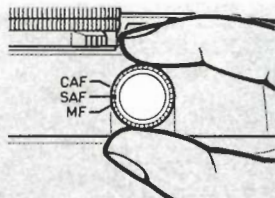
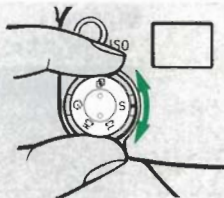
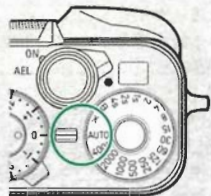
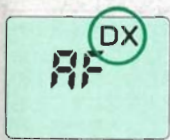
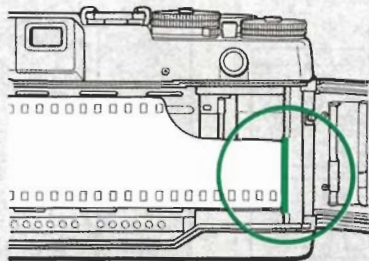
ダイレクトX接点
専用ストロボ連動接点
アクセサリーシュー
露出補正ダイヤル（P52）
A・B・Cレバー（P56）
ダイヤル指標
シャッタースピードダイヤル（P28）
シャッタースピードダイヤルロック解除ボタン
フィルムカウンター（P19）
メインスイッチ（P15）
シャッターボタン
ケーブルスイッチソケット
フォーカスダイヤル
セルフタイマーLED
距離基準指標
表示パネル（P18）
ドライブモード切り替えダイヤル（P29）
ISOボタン（P24）
アクティブAF用測距窓（赤外線発光部）
吊り環
ファインダー
レンズ指標
レンズ取りはずしボタン（P14）
パッシブAF用測距窓
アクティブAF用測距窓（受光部）
外部測光窓

ストラップの取付けかた

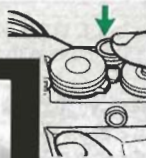
図にならって取付けてください。

目次

撮影の早わかり

1 電池を入れます。(P11)

2 レンズを取付けます。(P13)

3 メインスイッチを"ON"にします。(P15)

6 フォーカスモード切り替えダイヤルを"SAF"にし、ドライブモード切り替えダイヤルを"S"にします。(P29、30)

7 シャッタースピードダイヤルを"AUTO"にします。(P28)

4 フィルム感度を“DX”にセットします。
(P24)

5 DXフィルムを入れ、先端をオレンジ色の“I”マークの位置まで引出し、そのままスプールの上にのせて、裏ぶたを閉じます。
(P22)

8 絞りをセットします。
(P48)

9 ファインダー内フォーカスフレームを被写体に向け、シャッターボタンを半押しします。(P36)

10 測距マークが点灯します。シャッターボタンを押し込んで撮影します。
(P36)

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。
⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上の注意

〈カメラ使用上の注意〉

● レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹きとばすか、柔かいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。なお、ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。風圧でゴミ・ホコリがさらにカメラの奥に入り込む恐れがあります。

● 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので絶対に使用しないでください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠警告	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光させると視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

〈カメラの保管について〉

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈シャッター幕について〉

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり、触れたり、拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようにご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内臓しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

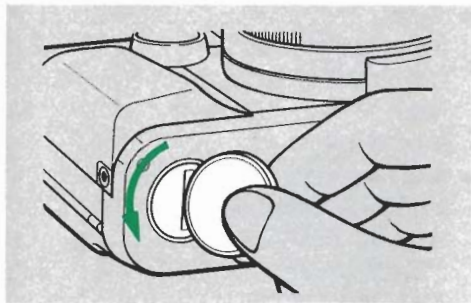
〈電池取り扱い上の注意〉

- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

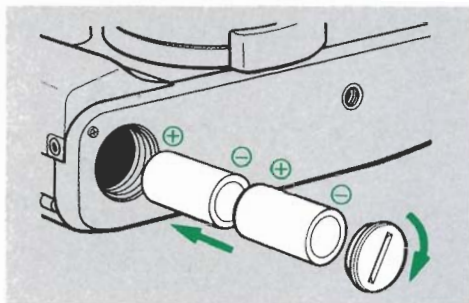
⚠注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠警告	● 電池を火の中に入れたり、充電、ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ● 新しい電池と使用した電池、他の種類の電池を混ぜて使わないでください。 ● CR2（3Vリチウム電池）は充電禁止です。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

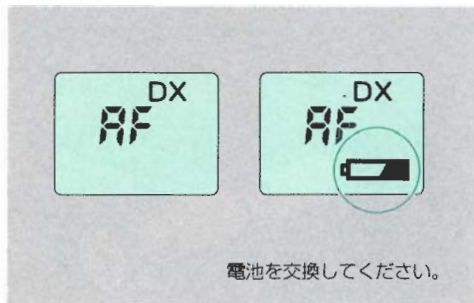
撮影前の基本操作

電池の入れかた

メインスイッチを"OFF"にしてから行ってください。

1 **バッテリー室カバーを開けます。**

硬貨などを利用し、図の矢印方向に回して開けてください。

2 **3Vリチウム電池（CR2）2本をバッテリー室内の表示に従って正しい向きで入れます。**

● 電池の向きを間違えると、カメラが作動しないばかりでなく、故障の原因となることがあります。

3 **カバーを元通りに閉めます。**

電池を交換してください。

〈バッテリーチェック〉

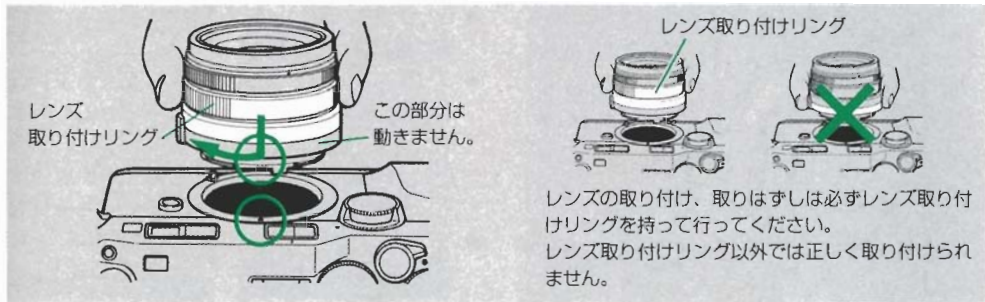
電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。表示パネルに“▭”（バッテリー警告マーク）が表示されなければ、電池の電圧は正常です。

〈電池の交換時期〉

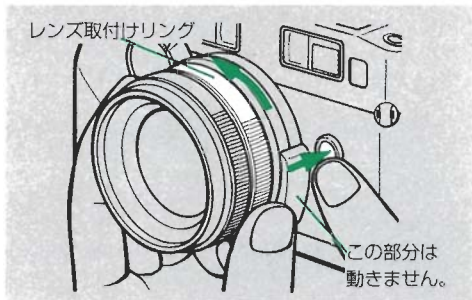
表示パネルに“▭”マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチを“OFF”にしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

- “▭”マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの“▭”マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、“▭”マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに“▭”マークが点灯した場合は、一度メインスイッチを“OFF”にし再度ONにしてください。この操作を行って“▭”マークが消えたらそのままお使いいただけます。

レンズの取り付け／取りはずし

レンズの取り付け、取りはずしは必ずレンズ取り付けリングを持って行ってください。
レンズ取り付けリング以外では正しく取り付けられません。

〈レンズの取り付け〉
まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次に、**レンズの取り付けリングを持ち、**レンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、押しつけるようにしながら時計方向（左上の図の矢印の方向）に、"カチッ" と音がして止まるまで回して取り付けます。

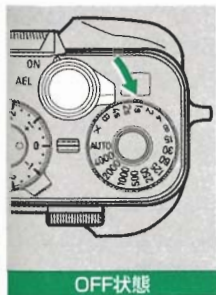
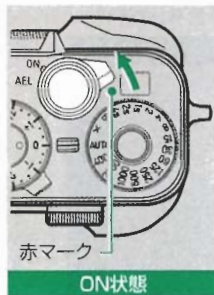
● レンズが入らない場合、あるいは指標をずらしてレンズを入れた場合はロックができません。

このときは、一度レンズを取りはずしてレンズのマウントリング（黒い部分）とレンズ取り付けリングを図の矢印方向へいっぱいに回してから取り付けてください。

〈レンズの取りはずし〉

レンズ取り付けリングを持ち、カメラのレンズ取りはずしボタン中央を押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、カメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部、接点等に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光などの強い光を避けてください。
  また、レンズを取りはずした状態で、直射日光下に長時間放置しないでください。
- ホロゴン16mmF8の取り付け、取りはずしは、必ずレンズガードを持って行ってください。

カメラからレンズを取りはずしたとき、絞りリングの作動範囲が変わりますが故障ではありません。カメラに取り付けると正しい作動範囲になります。

メインスイッチ

OFF状態

ON状態

電源の"OFF"、"ON"および、"AEL"（AEロック）の切り替えを行います。

● 誤作動を防ぐため、メインスイッチは"カチッ"と音がするクリックの位置に止めてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチをOFFにしてください。

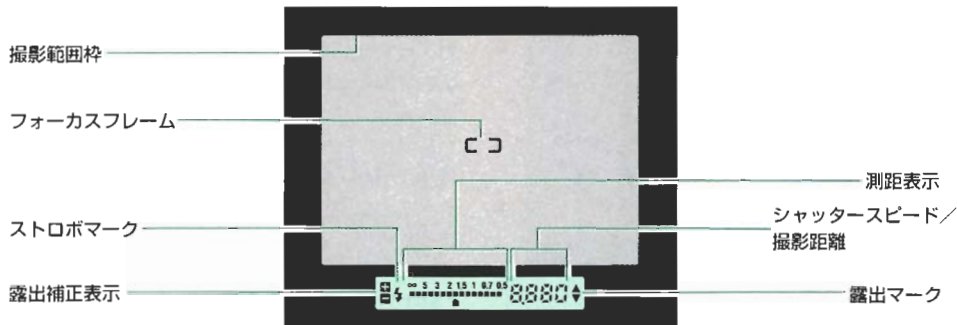
"ON"マーク

カメラの電源が入ります。通常はこの位置でご使用ください。

"AEL"マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。詳しくはP54をご覧ください。

ファインダー内表示

（この図は説明のために全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

ファインダー内表示は次の操作をしたときに表示されます。表示は、16秒後自動的に消える省電設計になっています。

①メインスイッチをONにしたとき。

②メインスイッチONの状態で、
シャッターボタン半押し、またはフォーカスダイヤル、フォーカスロックボタンを操作したとき。

表示中にダイヤルやボタン等を操作すると、さらに表示を16秒間延長します。

撮影範囲枠：
レンズの焦点距離や撮影距離によって自動的に変化します。枠内に被写体を入れて撮影してください。

フォーカスフレーム：
ピント合わせを行う範囲です。

ストロボマーク：
TLAフラッシュシステム使用時、充電が完了すると"⚡"マークが点灯します。またTTL調光が的確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。

露出補正表示：
露出補正ダイヤルやA・B・C撮影で露出補正をすると＋または－のマークが点灯します。

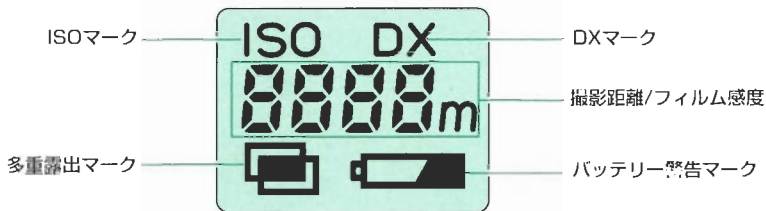
測距表示：
ピント合わせの状態を表示します。詳しくは「ピントの合わせかた」(P33から)をご覧ください。

シャッタースピード／撮影距離：
シャッタースピードを表示します。シャッタースピードは1/6000秒から16秒まで1/2ステップで表示され、"6000"は1/6000秒、"200"は1/200秒、"16""は16秒を表します。
また"MF"(マニュアルフォーカス)のときは、フォーカスロックボタンを押している間、撮影距離を表示します。

露出マーク：
オート露出モードでは、オート露出連動範囲外のオーバー"▲"、アンダー"▼"の表示、マニュアルモードでは、適正露出"▲▼"、オーバー"▲"、アンダー"▼"を表示します。

ファインダー右下隅にフィルターやフード、レンズの鏡胴などがわずかに見えることがありますが、実写画面には現れません。

表示パネル／フィルムカウンター

〈表示パネル〉（この図は説明のために全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります）

バッテリー警告マーク：
電池の交換時期を表示します。

ISO・DXマーク：
フィルム感度表示にしたとき、あるいはフィルム感度をセットするモードのときに表示します。
● DXコードによる自動セット状態のときは、常に"DX"を表示します。

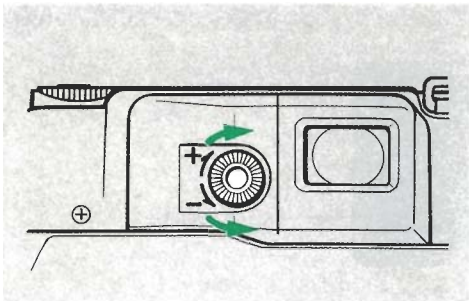
撮影距離／フィルム感度：
シャッターボタンを半押しすると、撮影距離を表示します。ISOボタンを押すと、フィルム感度表示になります。また、カスタム機能のセット状態も表示します。

〈フィルムカウンター〉

撮影枚数を表示します。

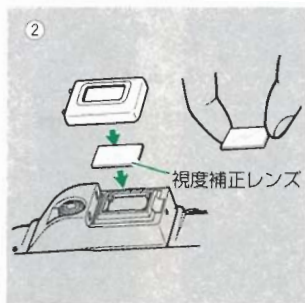
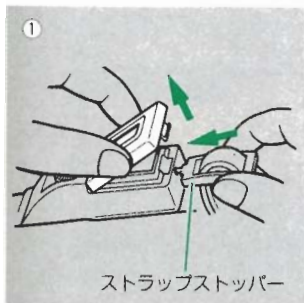
また、次のような表示もします。

- A・B・C撮影時の撮影順序
- 撮影フィルム終了時の表示
- セルフタイマー作動残り時間
- バルブ撮影の経過時間

視度調整のしかた

このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整つまみを回して、ファインダー内中央のフォーカスフレームがはっきり見えるように調整してください。
調整範囲は、+0.3～−2D（ディオプター）です。

カメラの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、視度補正レンズGFLタイプ（別売り）をご利用ください。

視度調整範囲は表のようになります。

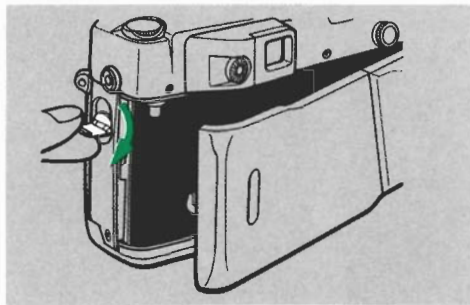
視度補正レンズ	調整範囲
なし	+0.3D～−2.0D
GFL (−4)	−3.0D～−5.0D
GFL (−2)	−1.0D～−3.5D
GFL (+2)	+3.0D～+0.4D

〈視度補正レンズの取り付けかた〉

視度補正レンズを取り付けるときは、レンズを落とさないよう、ファインダー接眼部を上に向けて行ってください。また、視度補正レンズは、汚さないよう隅を持ってください。

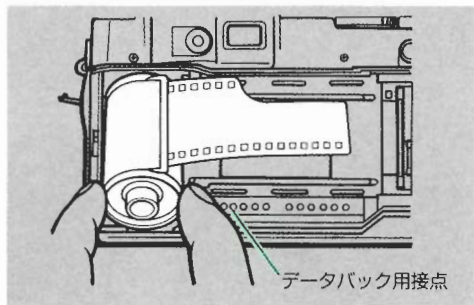
1 図のように、ファインダー接眼部横の穴を付属のストラップストッパーの先端で押しながら、接眼部の枠を引き上げてはずします。

2 視度補正レンズを、内側の枠内にはめこみます。

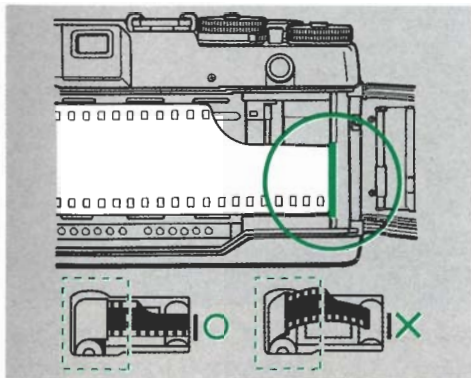
3 枠の左側の突起を穴に合わせて、元通りにはめこみます。

フィルムの入れかた

1 **裏ぶた開放ノブを起こし矢印方向に回して、裏ぶたを開けます。**

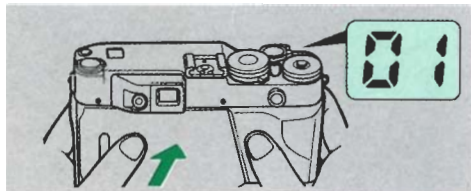
開けた後、裏ぶた開放ノブは元の位置に収納しておいてください。

● フィルムを入れるときはカメラの内側に入っている「保護シート」を必ず取りはずしてください。

2 **図のように、フィルムパトローネ先端を斜めにして入れます。**

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

3 フィルムの先端をオレンジ色の"I"マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。

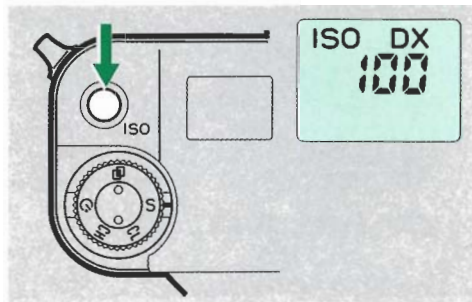
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

- フィルムの先が長く出ている場合は、長さを調節してください。

4 裏ぶたを確実に閉めます。

裏ぶたを閉めるとフィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは"01"になります。

- フィルムカウンターが"00"のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れ直してください。

- DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

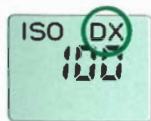
フィルム感度の確認のしかた

メインスイッチが“ON”の状態で、ISOボタンを押すと、図のようにフィルム感度が約16秒間表示パネルに表示されます。
DX自動セットのときは“DX”が表示されます。

● フィルム感度表示中にシャッターボタンを半押しすると「撮影距離表示」に戻ります。

フィルム感度のセットのしかた

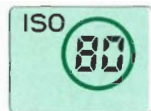
自動セット時　　手動セット時

フィルム感度のセットは、DXコード利用による自動セットと、任意の感度をセットする手動セットの2通りの方法があります。

表示パネルに“DX”が表示されているときは、DXコードによる自動セットになります。DXコード付きのフィルムをご使用になる場合はそのままお使いください。**表示パネルに“DX”が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。**

自動セットモード

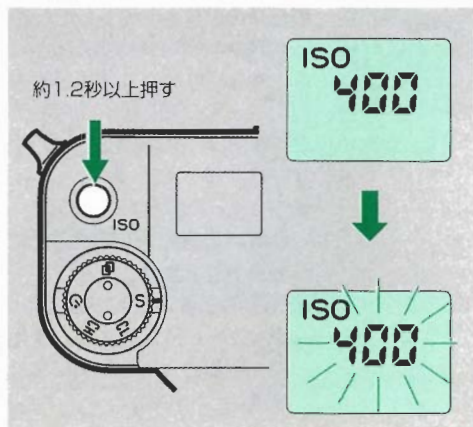
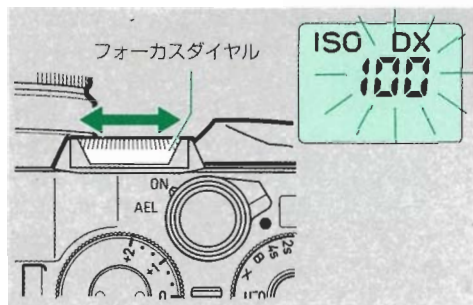
■ "DX" にセットしたとき（自動セットモード）

DXコード付きのフィルムを使うとき、カメラがフィルム感度を自動セットします。**DXコード付きフィルムはISO 25〜5000まで使用できます。**"DX"のマークと感度はフィルムの外箱に表示されています。

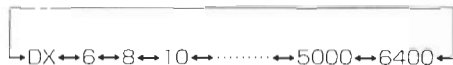
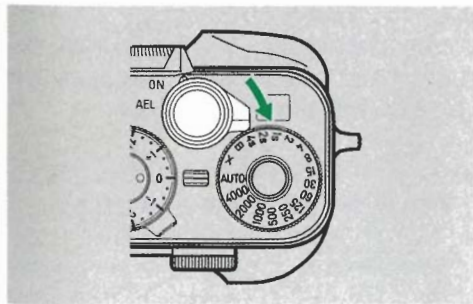
- DXコードのないフィルムを入れると、ISO100に自動セットされます。

手動セットモード

■任意の感度をセットしたとき（手動セットモード）

DXコードのないフィルムの感度セットや、DX表示と異なる感度に変えたい場合に使います。

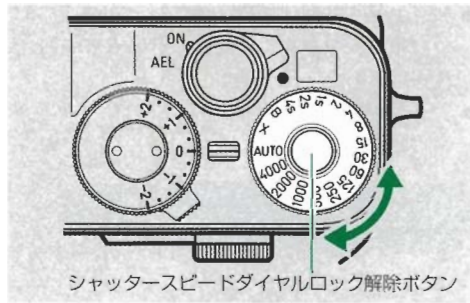
- フィルム感度は、**ISO 6〜6400の範囲で1/3段ごとにセットできます。**
- 任意の感度にセットすると、DXコード付きフィルム使用時も手動セットした値になります。

1 メインスイッチを"ON"にして、ISOボタンを、表示パネルの「フィルム感度」表示が点滅するまで（約1.2秒以上）押し続けます。点滅に変わったら、ボタンから指を離してください。

2 フォーカスダイヤルを回し、"DX"または合わせたい感度値にします。

フォーカスダイヤルを回すと、フィルム感度が1/3段階ずつ変化します。

DX↔6↔8↔10↔………↔5000↔6400

3 メインスイッチをいったん "OFF" にしてください。これでセット完了です。

- シャッターボタンを半押しする、フォーカスロックボタンを押す、または、そのまま約16秒経過してもセットされます。
- セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されています。

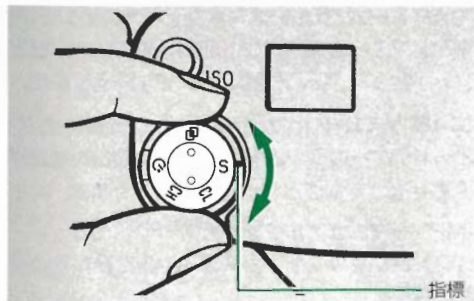
フィルム感度セットの途中ではファインダー内表示全体が点滅し、撮影できません。

シャッタースピードダイヤル

シャッタースピードダイヤルロック解除ボタン

撮影フィルムへの露光時間を調節するもので、"AUTO" にセットすると "絞り優先オート撮影" になります。
数字に合わせると "マニュアル露出撮影" になりシャッタースピードがセットされます。シャッタースピードは4S（4秒）〜4000（1/4000秒）の範囲で1段ごとにセットできます。

また、バルブ撮影を行うときは、"B" に合わせ、ストロボ撮影の場合は "X" に合わせます。"X" に合わせるとシャッタースピードはストロボ同調スピード（1/200秒）になります。

- シャッタースピードダイヤルはカチッと音がするクリックの位置に止めてご使用ください。
- "AUTO" と "X" には誤操作を防ぐためロックがかかります。切り替えるときはシャッタースピードダイヤルロック解除ボタンを押しながら行ってください。

ドライブモード切り替えダイヤル

撮影目的に応じて次のドライブモードが選べます。

ドライブモード切り替えダイヤルを回し、マークを指標に合わせてください。

- ダイヤルはクリックの位置に止めてご使用ください。

“S”…1コマ撮影

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

“CH”、“CL”…連続撮影

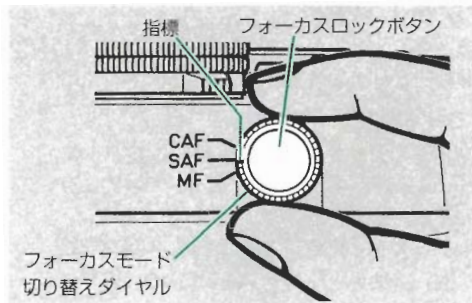
カメラのシャッターボタンを押している間、“CH”は最高約4コマ/秒、“CL”では約2コマ/秒の連続撮影ができます。(撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、使用する電池の状態、またデータバック使用時はコマ間写し込みあり/なし、により変化します。)

“⏲”…セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影をするときにセットします。詳しくはP66をご覧ください。

“▣”…多重露出撮影

多重露出撮影をするときにセットします。詳しくはP64をご覧ください。

フォーカスモード切り替えダイヤル／フォーカスロックボタン

〈フォーカスモード切り替えダイヤル〉

撮影目的に応じて次のフォーカスモードを選ぶことができます。詳しくは、「ピントの合わせかた」(P33）をご覧ください。

"SAF" …シングル・オートフォーカス

オートフォーカスでピント合わせを行い、一度ピントが合うと、その位置でピントを固定します。

"CAF" …コンティニュアス・オートフォーカス

オートフォーカスで連続してピントを合わせ続けます。

"MF" …マニュアルフォーカス

ピント合わせはフォーカスダイヤルを操作する手動になります。

〈フォーカスロックボタン〉

"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）撮影時、フォーカスロック（ピントを固定）したいときに、このボタンを押します。

カメラの構えかた

撮影するときは、必ずレンズキャップを取りはずしてください。

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

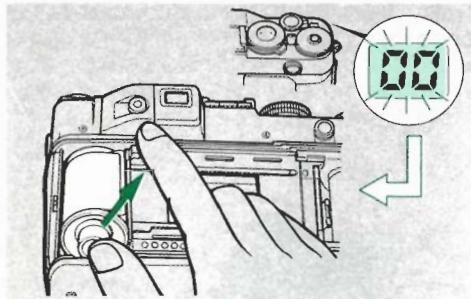
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分に合った姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

手にあまり力を入れず、静かに
シャッターボタンを押す。
写す瞬間、呼吸を止める。

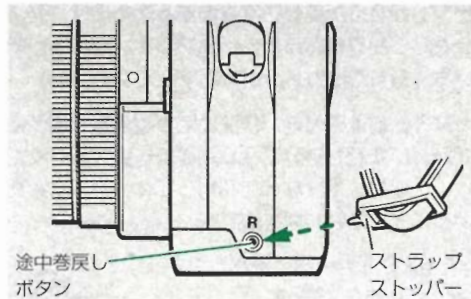
レンズ、測距窓、赤外線発光部、ISOボタンなどに指がかからないよう注意する。

- 構えたときISOボタンを押さないよう注意してください。ファインダー内表示全体が点滅しているときは、ISOボタンが押されてフィルム感度セットの状態になっており、撮影できません。フィルム感度が変わっていないか確認してください。

脇をしめてカメラを安定させる。

フィルムの巻戻し

フィルムを全部撮影し終えると自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了すると、モーターが停止しカウンターの“00”表示が点滅します。

モーターが停止し、フィルムカウンターが“00”で点滅していることを確認してから裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

- フィルムの取り出しは直射日光を避けて行ってください。
- 巻戻し後は、必ずフィルムを取り出してください。巻戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- フィルムを途中で巻き戻すときは、カメラ側面にある途中巻き戻しボタンを、付属のストラップストッパーの先端で押してください。（針などの鋭く尖ったものでは押さないでください。）
- 取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。

ピントの合わせかた

このカメラのピント合わせは、自動で行うオートフォーカス（AF）と手動で行うマニュアルフォーカス（MF）があります。オートフォーカスには "SAF"（シングル・オートフォーカス）と、"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）があります。フォーカスモード切り替えダイヤルで切り替えます。被写体に応じて使い分けると、よりよい写真撮影ができます。

1. **"SAF"（シングル・オートフォーカス）**
   比較的動きの少ない一般的な撮影の場合におすすめします。このモードでは、一度ピントが合うとピントが固定（フォーカスロック）します。ピントが合わないとシャッターが切れません。
   ピント優先のモードです。

2. **"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）**
   子供など動く被写体を画面の中心で連続的に追う場合におすすめします。
   このモードではピントが合わなくてもシャッターが切れます。
   シャッターチャンス優先のモードです。

3. **"MF"（マニュアルフォーカス）**
   花火とか夜景などオートフォーカスでピントが合わせにくい遠い被写体には、マニュアルフォーカスで "InF"（無限遠）にするとよいピントが得られます。
   その他、静物写真のように、常に一定の距離で数多く撮影したいときはマニュアルフォーカスで距離を設定して撮影すると便利です。

ドライブモード（S、CL、CH）とフォーカスモードの関係

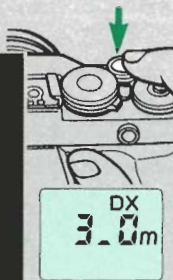
各ドライブモード（S、CL、CH）時、フォーカスモードによるピント合わせは次のようになります。

フォーカスモード / ドライブモード	"SAF"（シングル・オートフォーカス）	"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）	"MF"（マニュアル・フォーカス）
S（1コマ撮影）	シャッターボタン半押しでAFが作動して、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。 ●ピント合わせができないときは、シャッターが切れません。	シャッターボタン半押しでAFが作動し、半押ししている間ピントを合わせ続けます。 ●フォーカスロックボタンを押すとその位置でピントが固定（フォーカスロック）します。 ●ピント合わせができなくてもシャッターを切ることができます。	カメラのフォーカスダイヤルを回してピントを合わせます。
CL、CH（連続撮影）	シャッターボタン半押しでAFが作動して、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。 ●ピント合わせができないときは、シャッターが切れません。 **●連続撮影時は、最初のコマ（写真）でピントを固定しての撮影になります。**	シャッターボタン半押しでAFが作動し、半押ししている間ピントを合わせ続けます。 ●フォーカスロックボタンを押すと、その位置でピントが固定（フォーカスロック）します。 ●ピント合わせができなくてもシャッターを切ることができます。 **●連続撮影時は、1コマごとにピントを合わせなおします。**	カメラのフォーカスダイヤルを回してピントを合わせます。 **●連続撮影中は、マニュアルフォーカスできません。**

<ドライブモード（S、CL、CH）と露出について>

ドライブモードとフォーカスモードの組み合わせで、露出（測光）は次のようになります。
（絞り優先オート時）

<table>
<tr><th>フォーカスモード ＼ ドライブモード</th><th>"SAF"
(シングル・オートフォーカス)</th><th>"CAF"
(コンティニュアス・オートフォーカス)</th><th>"MF"
(マニュアル・フォーカス)</th></tr>
<tr><td>S
(1コマ撮影)</td><td colspan="3">シャッターが切れる直前に露出値を決定します。</td></tr>
<tr><td>CL
(連続撮影)</td><td colspan="3">シャッターが切れる直前に露出値を決定します。
●連続撮影時は、1コマごとに測りなおします。</td></tr>
<tr><td>CH
(連続撮影)</td><td>シャッターが切れる直前に露出値を決定します。
●連続撮影時は、最初のコマ（写真）の露出で連続撮影されます。</td><td>シャッターが切れる直前に露出値を決定します。
●連続撮影時は、1コマごとに測りなおします。ただし、フォーカスロックしたときは、その時点で露出も固定（AEロック）します。</td><td>シャッターが切れる直前に露出値を決定します。
●連続撮影時は、最初のコマ（写真）の露出で連続撮影されます。</td></tr>
</table>

オートフォーカス（"SAF"、"CAF"）によるピント合わせ

1 **フォーカスモード切り替えダイヤルを、"SAF" または "CAF" にセットします。**

ファインダー内表示とカメラ上面の表示パネルが図のようになります。

● 装着するレンズにより、ファインダー内測距表示の距離目盛りが変わります。

2 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

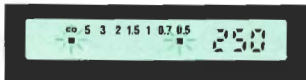
自動的にピント合わせが行われ、測距マークが点灯します。点灯した位置がピントを合わせた撮影距離です。

同時に、表示パネルに距離の値を表示します。

3 **そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。**

■ "SAF"（シングル・オートフォーカス）のとき：

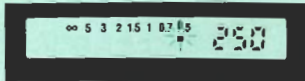
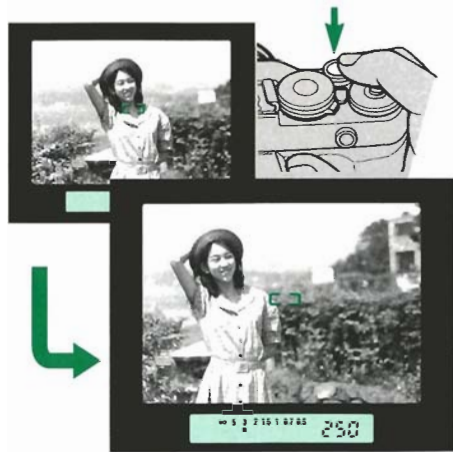
シャッターボタンを半押ししたとき、一度ピントが合うとその位置で固定（フォーカスロック）されます。

- 連続撮影（"CL"、"CH"）時は、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。
- ピント合わせができないときは、測距不能マーク"⁂⁂"が点滅し、シャッターが切れません。等距離にある別の被写体でフォーカスロック（P38）して撮影してください。
- ピント合わせができなくてもシャッターチャンス優先で撮影したいときはフォーカスロックボタンを押しながらシャッターボタンを押してください。シャッターを切ることができます。

■ "CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）のとき：

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ピントが合ったことを確認して撮影してください。

- 連続撮影（"CL"、"CH"）では1コマごとにピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
- 測距不能マーク"⁂⁂"が点滅表示し、ピント合わせができないときでもシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。
- 被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。

動く被写体を追いかけている途中で測距ができなくなっても、前の情報でピント合わせを行いますのでそのままシャッターを切っても極端なピントずれをおこしません。そのような撮影のときは別記の被写界深度表を参考にして絞りを絞り込んで撮影することをおすすめします。

測距表示右端の"⁂"マークが点滅しているときは被写体との距離が近すぎます。"SAF"のときはシャッターが切れません。"CAF"のときはシャッターが切れますがピントは合いません。

〈フォーカスロック〉

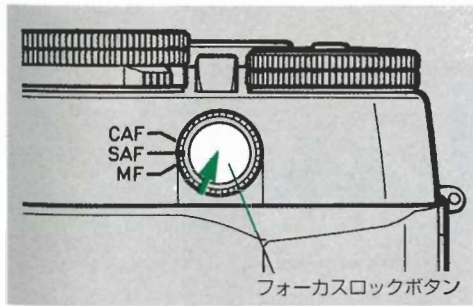
オートフォーカス（"SAF"、"CAF"）のとき、構図によってピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。

■ "SAF"（シングル・オートフォーカス）のとき：

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

ピント合わせが行われ、ピントが合うと測距表示の測距マークが表示されて、その位置でフォーカスロックされます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

- シャッターボタンを半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

■ "CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）のとき：

1 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

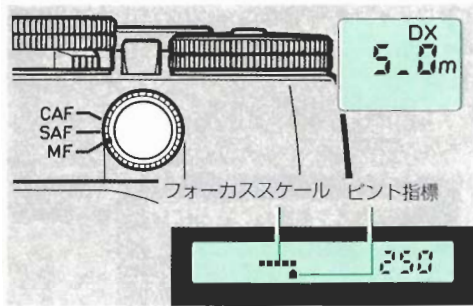
シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

2 **ファインダー内測距マークが点灯したことを確認して、フォーカスロックボタンを押してください。**

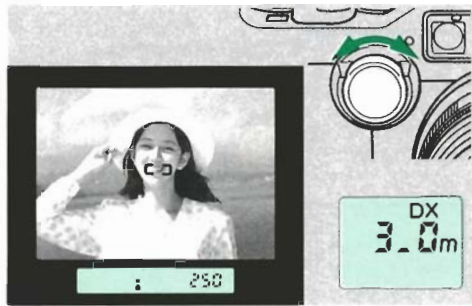
フォーカスロックボタンを押したところでピントが固定します。

3 **フォーカスロックボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。**

- フォーカスロックボタンを押している間、ピントはロックされています。

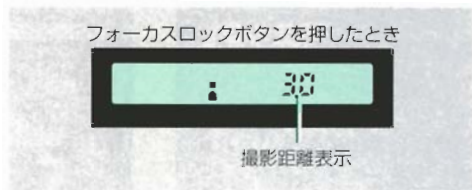
マニュアルフォーカス（"MF"）によるピント合わせ

"MF" にセットするとファインダー内測距表示が図のようになり、フォーカススケール（ピントの合い具合）とピント指標を表示します。
表示パネルには、フォーカスダイヤルに連動して撮影距離が表示されます。

〈1.カメラの測距機能を使用するとき〉

1 **フォーカスモード切り替えダイヤルを "MF" にセットします。**

2 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、ファインダー内測距表示を見ながらフォーカスダイヤルを回します。**
ファインダー内のフォーカススケールが変化しますので、フォーカススケールとピント指標が一致するようにします。

測距表示とピントの合い具合：

フォーカススケールの"■"はピントがずれているほど多く表示されます。

表示	ピントの合い具合
フォーカススケール ■■■ ▲ ピント指標	[後ピン] 被写体にピントが合っていません。被写体より遠距離のものにピントが合っています。
■ ▲	[合焦] 被写体にピントが合っています。
■■■ ▲	[前ピン] 被写体にピントが合っていません。被写体より近距離のものにピントが合っています。
■ ▲ ■ 点滅	[測距不能] 測距できず、正しいピントが得られません。

● "MF"のときは、フォーカスロックボタンを押すと、押している間、ファインダー内のシャッタースピード表示が撮影距離（レンズ設定距離）表示に変わります。ファインダーから目を離すことなく撮影距離を確認したいときに便利です。

〈2. 被写体までの距離がわかっているとき〉

1 フォーカスモード切り替えダイヤルを"MF"にセットします。

2 表示パネルを見ながら、フォーカスダイヤルを回して被写体までの距離の数字にします。

オートフォーカスについて

このカメラのオートフォーカス機構には、アクティブ方式（赤外光の照射による三角測距方式）とパッシブ方式（左右の測距窓により被写体像のずれを利用してピントを合わせる方式）が搭載されています。たとえば、赤外光の届かない遠距離はパッシブ方式で測距し、パッシブ方式の苦手な低コントラストの比較的近距離の被写体はアクティブ方式が補います。2つの方式を併用することでピント合わせの確実さと正確さが向上していますが、機構上、次のようなピント合わせの苦手な被写体があります。この注意を参考にしてよりよいピント合わせを行ってください。

〈ピント合わせの苦手な被写体〉

①

1.被写体がフォーカスフレーム内にない、または被写体がごく小さい場合。

① ピント合わせはフォーカスフレーム内で行いますので、このような場合には背景にピントが合います。

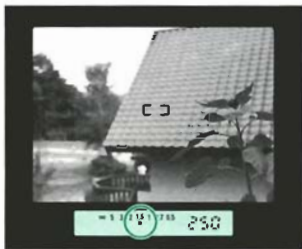
② フォーカスフレームがすっぽり入るような被写体の別の部分でピントを合わせ、フォーカスロックして、構図を戻して撮影してください。

①

②

2.低コントラストの被写体。

① 白い壁など低コントラストの被写体ではピントが合わせにくくなります。

② 窓枠などのコントラストのある部分でピントを合わせ、フォーカスロックして、構図を戻して撮影してください。

3.繰り返しパターン。

① 像のずれを利用してピント合わせを行うため、極端に異なる距離にピント合わせをすることがあります。その場合、ファインダー内距離表示が極端に違った値を表示します。

② このような場合には、図の位置で繰り返しパターンを避けてピントを合わせ、フォーカスロックして、構図を戻して撮影してください。

4.暗い被写体。

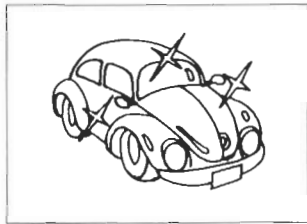
ストロボ撮影時など暗いところではアクティブ方式が有効です。アクティブ方式が有効に働くよう、3mより近づいて撮影してください。できるだけ反射率の高い被写体（白いシャツなど）で撮影してください。

- 夜景などの遠距離の被写体では、マニュアルフォーカスで"InF"（無限遠）に設定するとよいピントが得られます。

5.水平線など横線だけの被写体。

1 横線だけの被写体ではピント合わせができません。

2 カメラを縦位置にしてピントを合わせ、フォーカスロックして、構図を戻して撮影してください。

- 水平線など、遠距離の被写体では、マニュアルフォーカスで"InF"（無限遠）に設定するとよいピントが得られます。

6.非常に明るい被写体や光沢のある被写体の場合。

このような場合、ピント合わせができないことがあります。等距離にある別のものにピントを合わせてフォーカスロックするか、マニュアルフォーカスで被写体までの距離を設定して撮影してください。

7.フォーカスフレームの周辺に強い光源がある場合、および背景に太陽などの強い光源があり画面内に入る場合。

このような場合、ピント合わせができないことがあります。等距離にある別のものにピントを合わせてフォーカスロックするか、マニュアルフォーカスで被写体までの距離を設定して撮影してください。

8.フォーカスフレーム内に極度に距離の違う被写体が共存する場合。

ピントが合わせられなかったり、極端に違った距離にピント合わせすることがあります。このような場合は、ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームがすっぽり入るようにしてピントを合わせ、フォーカスロックし、構図を戻して撮影してください。

9.高速で移動する被写体。

高速で移動する被写体はピントが合わせにくくなります。マニュアルフォーカスであらかじめ距離を設定して、被写体がその位置にきたら撮影する、などしてください。

撮影操作と応用テクニック

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。
シャッタースピードダイヤルで切り替えます。

絞り優先オート撮影 (AUTO)

あらかじめ絞りをセットすることにより、被写体の明るさに応じてシャッタースピードを自動的にコントロールし、適正露出を得ます。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

マニュアル露出撮影

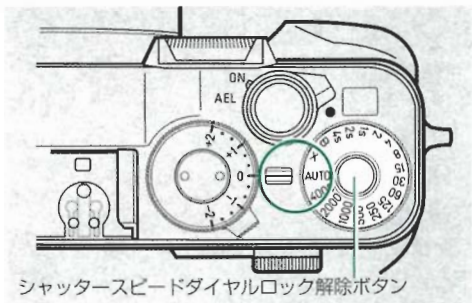
絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

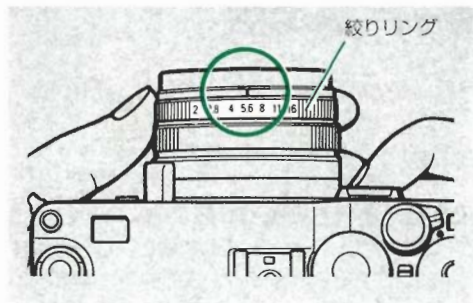
バルブ撮影 (B)

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

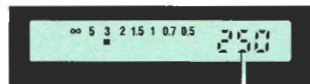
ストロボ撮影 (X)

当社専用ストロボ連動接点のない、X接点のみの汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。詳しくは、「TLAストロボ以外のストロボによる撮影 (P63)」をご覧ください。

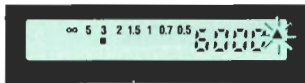
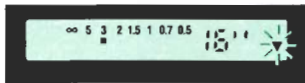
絞り優先オート撮影

1 シャッタースピードダイヤルを“AUTO”にセットします。

切り替えは、シャッタースピードダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッタースピードダイヤルを回してください。

2 絞りをセットし、撮影します。

レンズの絞りリングを回して絞りをセットします。セットした絞りに応じた適正なシャッタースピードを自動セットし、ファインダー内に表示します。

∞ 5 3 2 1.5 1 0.7 0.5　250

シャッタースピード

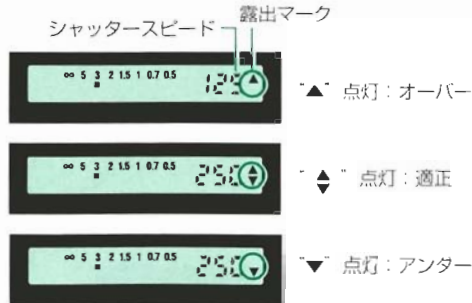
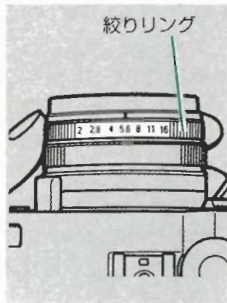
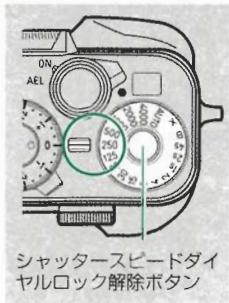
● 普段使用するときは、シャッタースピードが、1/60秒〜1/6000秒になるように絞りを選びます。

● 露出マーク"▲"が点滅するときは露出オーバーになります。被写体が明るすぎますので、絞りを絞って、"▲"が消えるようにしてください。

オーバー警告

アンダー警告

● 露出マーク"▼"が点滅するときは、露出アンダーになります。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを開けたりして"▼"が消えるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

● シャッタースピードが1/60秒より遅くなるようなときにはストロボを使用することをおすすめします。ストロボを使用しない場合はカメラぶれを防ぐため三脚を使用してください。

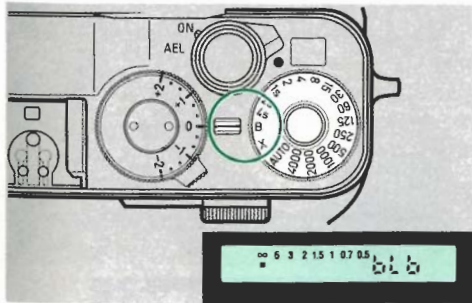
● 露出オーバー・アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

マニュアル露出撮影

1 **シャッタースピードをダイヤル指標に合わせます。**

絞り優先オート（AUTO）や"X"から切り替える場合は、シャッタースピードダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッタースピードダイヤルを回してください。

2 **レンズの絞りリングを回して絞りをセットし、撮影します。**

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと露出マークが点灯します。シャッタースピードダイヤルまたはレンズの絞りリングを回し、露出マークが"▲▼"になるようにして撮影してください。

バルブ撮影（B）

1 シャッタースピードダイヤルを"B"にセットします。

2 **絞りをセットし、撮影します。**
シャッターボタンを押している間、シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLを使用して撮影してください。

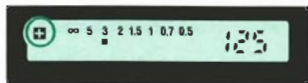
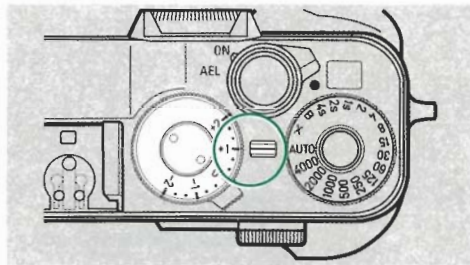
露出の補正

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合に露出の補正を行います。また、意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときにも利用します。露出の補正には次の3通りの方法があります。

- 補正は、シャッタースピードをコントロールして行います。

〈1. 露出補正ダイヤルの利用〉

通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を“ダイヤル指標”に合わせてください。補正値は+2EV〜−2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。

露出補正ダイヤルを“0”以外に合わせると、ファインダー内に、補正に合わせて“+”または“−”マークが点灯し補正中であることを表示します。

絞り優先オート時：補正した値に応じてシャッタースピードが変化します。

マニュアル露出時：補正した値に応じて露出マークが点灯しますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを回し、露出マークが“◆”になるようにして撮影してください。

撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを“0”に戻してください。

（補正なし）

（＋補正）

（補正なし）

（－補正）

逆光撮影などのときは…
"＋1/3"～"＋2"の範囲で補正します。

逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

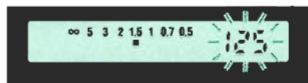
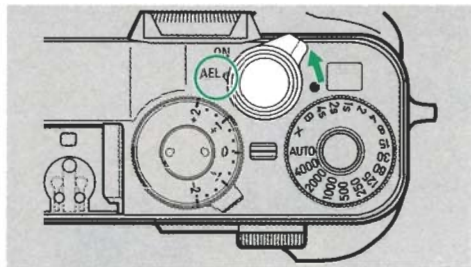
暗い背景などのときは…
"－1/3"～"－2"の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈2. AEロックの利用〉

絞り優先オート露出撮影時に、被写体の露出（シャッタースピード）を記憶する機構です。逆光時での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。メインスイッチを"AEL"にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景の変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを"ON"→"AEL"に切り替えます。

これで露出が固定(AEロック)されます。

- AEロック中は、ファインダー内シャッタースピード表示が点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。
- このカメラは、AEロックの方式としてシャッタースピードを記憶しています。AEロック後に絞りを変えると露出量が変わります。

2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。

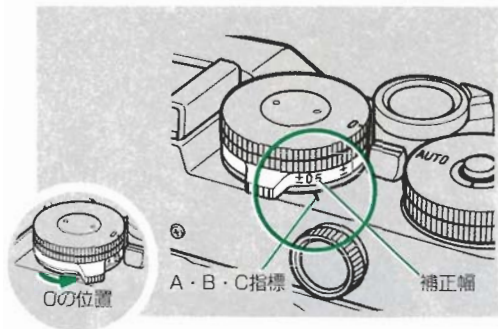
- 連続撮影（ドライブモード"CL""CH"）するときもあらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、ロックした値を基準にして補正します。

〈3. A・B・C撮影（3コマ連続自動露出補正）〉

このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとでも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。
* A・B・C：Autmatic Bracketing Control

1 A・B・Cレバーを動かし、補正幅をセットします。

A・B・C撮影に切り替わります。補正幅は±0.5EV、±1EV の2種類が設定できます。

- 絞り優先オートでは、撮影するごとに測光し直し、そのときの測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA・B・C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
- ドライブモードが“CH”でフォーカスモードが“SAF”の場合は1コマ目の露出を基準にして補正します。

- マニュアル撮影ではセットしたシャッタースピードに対して補正を行います。
- 露出補正ダイヤルを“0”以外にセットすると、その補正値を基準にしたA・B・C撮影になります。
- A・B・C撮影が終了したら、必ずA・B・Cレバーを“0”（A・B・C指標がかくれる位置）に戻してください。
- ストロボを併用するA・B・C撮影はできません。

スタンダード

オーバー

アンダー

2 ドライブモードを連続撮影“CL”、“CH”にしてシャッターボタンを押し続けると、セットした補正値に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。 ドライブモードを“S”にすると1コマごとの A・B・C撮影になります。“⏲”にすると、シャッターボタンを押した後、10秒後連続撮影によるA・B・C撮影になります。

A・B・C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー：左側の桁のみが点滅（ファインダー内“＋”表示）
アンダー：右側の桁のみが点滅（ファインダー内“－”表示）

例えば18コマ目からA・B・C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	(以後繰返し)
補正:	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター:				
表示:	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、A・B・Cレバーを“0”にしてください。
- A・B・C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、A・B・C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

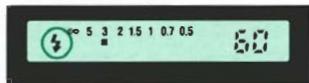
ストロボ撮影

室内や夜間の撮影では、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせると、カメラ側でストロボ光を自動制御する"TTLダイレクト測光"による撮影が行えます。

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラにTLAストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

2 ストロボを"TTLオートモード"にセットします。

充電が完了するとファインダー内に"⚡"マークが点灯し、次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

■絞り優先オート（AUTO）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	表示
16秒～1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒 ～1/200秒	1/60秒 ～1/200秒	"60"～ "200"が点灯
1/200秒を越え ～1/6000秒	1/200秒	"200"が点灯、"▲"マークが点滅*

* 露出オーバーになります。絞りを絞り込んで"▲"マークが消えるようにして撮影してください。

■マニュアル露出、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

マニュアル露出のときはシャッタースピードは自動セットされません。必ず“X”または1/125秒以下にセットしてください。セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。

“X”のときはシャッタースピードが1/200秒にセットされ、ファインダー内に“200”が点灯表示されます。

“B”のときは“バルブ撮影”になり、ファインダー内に“bLb”が表示されます。

3 絞りをセットして撮影します。

絞りは、使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

ストロボが自動制御され正しい露出になったときは、撮影後ファインダー内“⚡”マークが2秒間点滅します。

- 撮影後、“⚡”マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
- 近接撮影時“⚡”が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。

- A・B・Cレバーは、必ず“0”にしてください。
- ドライブモードが“CL”、“CH”（連続撮影）の場合は、発光間隔などストロボの性能をご確認の上ご使用ください。
- フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）

通常のストロボ撮影

〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で、人物を撮るなどのときに、夕景や夜景などバックの情景も生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。

TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

■ “絞り優先オート（AUTO)”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

■マニュアル露出のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして“ ◆ ”が点灯するようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

- スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、ＴＬＡストロボを使ってＴＴＬオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

ストロボを使用しない場合

■ "絞り優先オート（AUTO）" のとき

ストロボ充電完了後、"▲" が点滅した場合は、絞りを絞って "▲" を消して撮影してください。

■ "マニュアル露出" のとき

シャッタースピードダイヤルを "X" または "125" 以下にセットしてください。

絞りを調整し、ファインダー内露出マークが "▲▼" 表示になるようにして撮影します。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

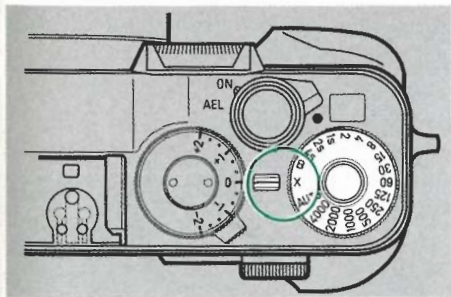
後幕シンクロ撮影

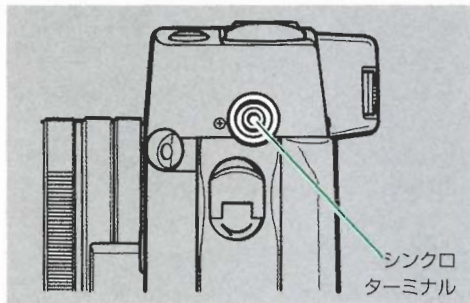
先幕シンクロ撮影

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。

通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光させる**「先幕シンクロ」**という方法で撮影します。このカメラと、「後幕シンクロ」機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光させる**「後幕シンクロ」**という方法ができます。ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

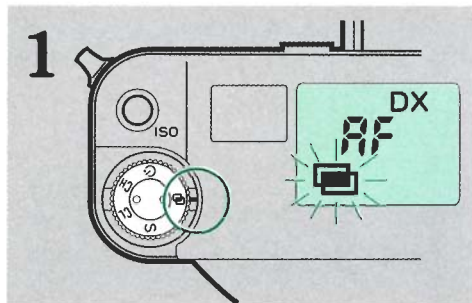
- 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈TLAストロボ以外のストロボによる撮影〉

1 カメラにストロボを取付け、シャッタースピードダイヤルを“X”（1/200秒）または1/125秒以下にセットします。

2 絞りをセットして撮影します。

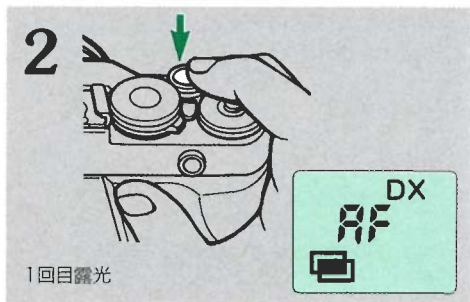
絞りは、使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

- ダイレクト接点式でない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

多重露出撮影

1回目露光

同じ画面に違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 **ドライブモード切り替えダイヤルを多重露出モード"▣"にセットします。**

● 表示パネルに"▣"マークが点滅表示されます。

2 **シャッターボタンを押します。**

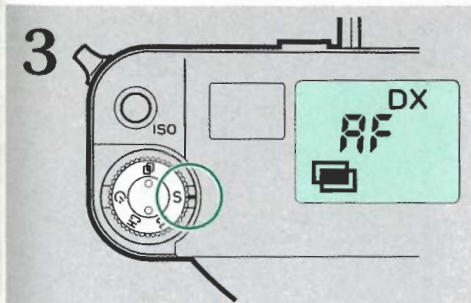
1回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。

● 表示パネルの"▣"が点灯に変わります。

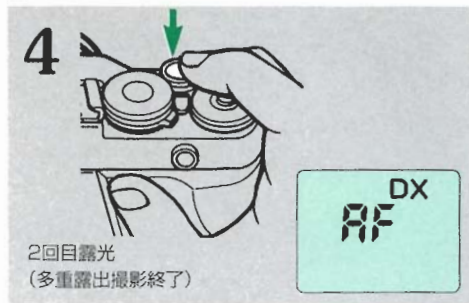
3 **ドライブモード切り替えダイヤルを"S"にします。**

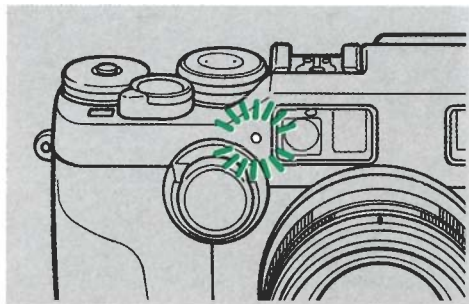
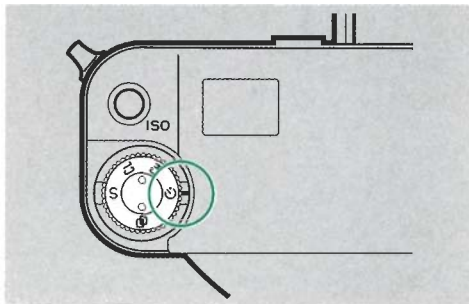
表示パネルの"▣"は点灯のままです。

● ドライブモード切り替えダイヤルが"▣"のままでは次の露光ができません。

2回目露光
（多重露出撮影終了）

4 再度シャッターボタンを押します。

2回目の露光を行った後、フィルムが送られて多重露出モードが終了します。

3回以上の多重露出を行いたいときは、上記“3”でドライブモード切り替えダイヤルをいったん“S”にした後、再度“▣”にセットしてください。“▣”マークが点灯から点滅になり、このシャッターボタンを押すとさらに1回多重露出が行えます。この操作を繰り返すことにより、希望回数分の多重露出が行えます。

- 1回目露光の後、メインスイッチをOFFにすると、次に“ON”したときは多重露出の続き（2回目の露光）になります。
- 多重露出モードにセットした後、撮影開始前に他のドライブモードにすると多重露出は中止されます。
- 1回目露光後の多重露出は中止できませんのでご注意ください。

セルフタイマー撮影

1 ドライブモード切り替えダイヤルを“ ”にセットします。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。セルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

- フォーカスモードが“SAF”のときは、セルフタイマースタート時にピントがロックされます。“CAF”のときは、セルフタイマー作動中も連続してピントを合わせ続けます。

- セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
- 露出モードを“B”にセットしたときはセルフタイマーは使用できません。
- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、10秒後にシャッターが切れます。
- セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチをOFFにするか、ドライブモード切り替えダイヤルを、他のモードに切り替えてください。

その他

カスタム機能

このカメラには、次の表のように、5項目の"カスタム機能"を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号"0"）にセットしてあります。(この取扱説明書では"0"の状態を説明しています。)

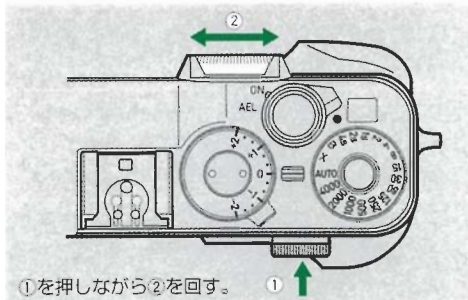
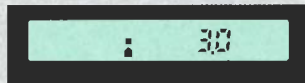
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」(P72）をご覧ください。

● カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。この「カスタム機能」のページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈カスタム機能一覧表〉

内容番号／機能番号	標準設定 0	変更設定 1
1：AEロックの方法	メインスイッチを"AEL"にする。	シャッターボタンを半押ししている間、AEロックする。(ストロボ充電完了時を除く) ● メインスイッチによる連続AEロック時は連続AEロックが優先します。
2：A・B・C撮影順序の切り替え	撮影順序が　スタンダード ↓ オーバー ↓ アンダー	撮影順序が　オーバー ↓ スタンダード ↓ アンダー

機能番号＼内容番号	標準設定 0	変更設定 1
3: フィルム巻き戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む。	フィルムの先端をパトローネの外に残す。
4: マニュアルフォーカス時、撮影距離の合わせかた	フォーカスダイヤルを回して撮影距離を合わせる。	フォーカスロックボタンを押しながらフォーカスダイヤルを回して撮影距離を合わせる。 ※1
5: 多重露出撮影の方法	露光するごとにドライブモード切り替えダイヤルを操作する。	ドライブモード切り替えダイヤルを"▭"にセットしたまま、状況に応じて必要な回数の多重露出を行うことができます。 ※2
CLE：カスタム機能のオールリセット	カスタム機能（1～5）の内容をすべて標準設定"0"に戻す。 この状態でメインスイッチを"OFF"にすると、それまでにセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定"0"になります。 ● シャッターボタンの半押し、およびそのまま約16秒経過しても標準設定"0"になりますので注意してください。	

①を押しながら②を回す。

※1：この機能にセットすると、マニュアル・フォーカスで距離を固定することができます。マニュアル・フォーカス（MF）時、フォーカスロックボタンを押しながらフォーカスダイヤルを回して撮影距離を合わせます。知らない間にフォーカスダイヤルが動いて不用意にピント位置がずれるのを避けたいときや、あらかじめ一定の距離にピントを合わせておきたいときなどに使います。

操作のしかた（"MF" にセットしておきます。）

■カメラの測距機能を利用して距離を合わせるとき：

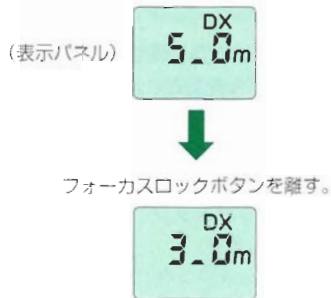
被写体にフォーカスフレームを向け、フォーカスロックボタンを押しながらフォーカスダイヤルを回します。「合焦」表示になったところでフォーカスロックボタンを離します。

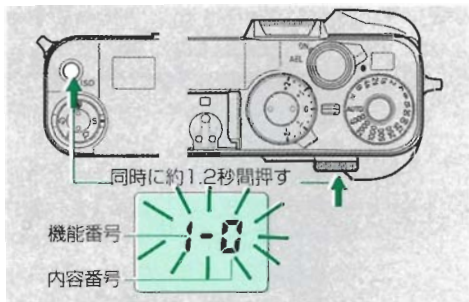
■任意の距離に合わせるとき：
フォーカスロックボタンを押しながらフォーカスダイヤルを回し、表示パネルに希望の「距離(数字)」を表示させてフォーカスロックボタンを離します。

(例)：3mに合わせる。

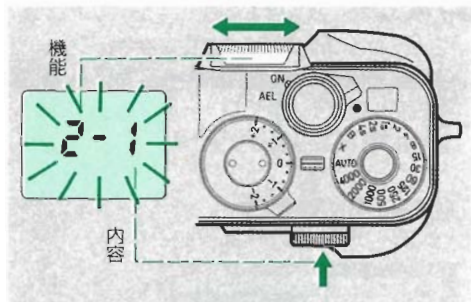
フォーカスロックボタンを押しながらフォーカスダイヤルを回す。

(表示パネル)

フォーカスロックボタンを離す。

※2：この機能にセットすると、ドライブモード切り替えダイヤルを"▣"にセットしたまま、多重露出撮影ができます。状況に応じて必要な回数だけ多重露出が行えます。ドライブモード切り替えダイヤルを"▣"にすると表示パネルに"▣"マークが点滅表示され、シャッターを切ると次の露光のためにシャッターだけがセットされます。ドライブモード切り替えダイヤルを"▣"から他のモードに変えると、フィルムが送られ、多重露出が終了します。

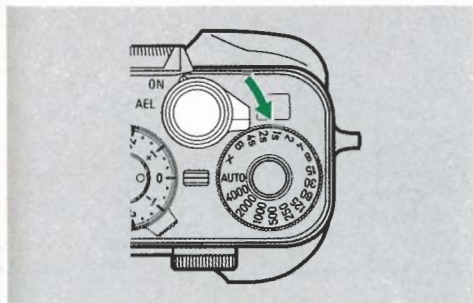
● この機能を選択しているときは、多重露出が終了したら、"▣"から他のモードに戻すことを忘れないでください。

〈カスタム機能のセットのしかた〉

1 表示パネルが図のような表示になるまで（約1.2秒間）、"ISOボタン" と "フォーカスロックボタン" を同時に押し続けます。

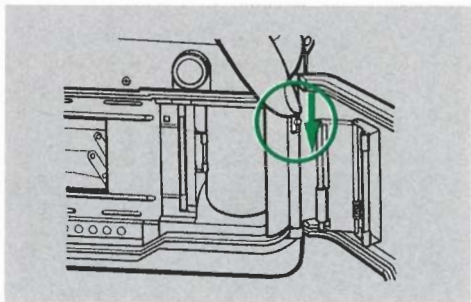
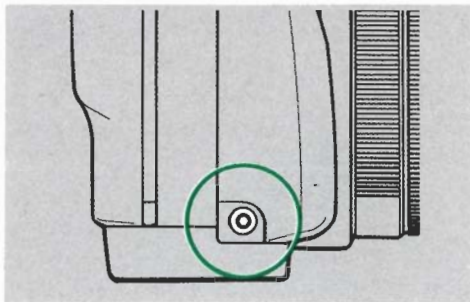
図のような表示（カスタム機能セット状態）になったら、一度ボタンから指を離してください。

2 "フォーカスダイヤル" を回して、セットする「機能」の番号を選び、表示させます。

- フォーカスダイヤルを回すと、「機能」の番号が、1-↔2-←…→5-↔ "CLE" ↔1-（以下繰り返し）と変わります。

3 "フォーカスロックボタン" を押して、「内容」の番号を選択します。

- フォーカスロックボタンを押すごとに「内容」の数字が変わりますので、セットする番号（"0" または "1"）にしてください。

4 メインスイッチをいったん“OFF”にしてください。これでセット完了です。

- シャッターボタンを半押しする、またはそのまま約16秒間経過してもセットが完了します。

ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチLを接続するソケットで、ケーブルスイッチLからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

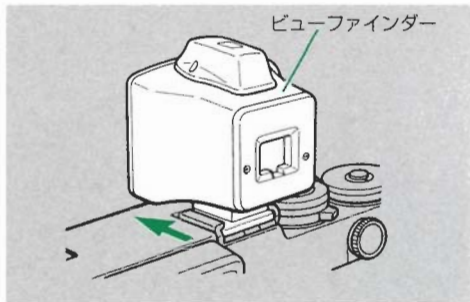
- ケーブルスイッチを使ってオートフォーカス（"SAF" "CAF"）で撮影する場合はピント合わせを行った後シャッターが切れます。一瞬のシャッターチャンスをねらう撮影ではフォーカスモードを"MF"にしてください。
- ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取付けないでください。故障の原因になります。

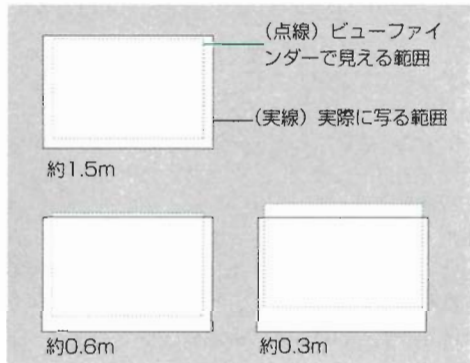
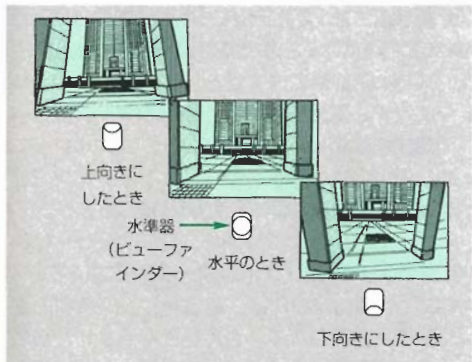
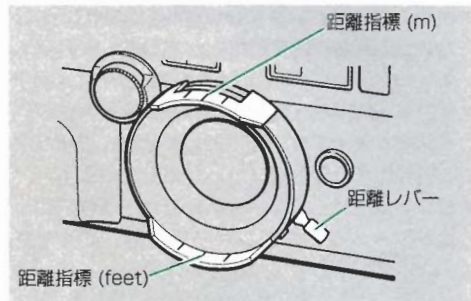
裏ぶたの取りはずし

カメラの裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取りはずすことができます。

測光方式について

このカメラには、シャッター幕面の反射光を測る“TTL実絞り測光”（中央重点平均測光）とファインダー横の受光素子で測る“外部測光”の2通りの測光方式があります。外部測光はHologon T* 16mmF8に使用し、その他のレンズはTTL実絞り測光になります。レンズを装着すると自動的に切り替わります。
また、外部測光はデータバックGD-2を使用するとき「撮影時の露出データ」の「概略F値」の算出にも使用します。
測光窓が遮られないように注意してください。

ホロゴン16mm F8について

ホロゴン16mm F8は超広角の特殊レンズであるため、使用にあたっては次の点にご留意ください。

〈1. ビューファインダー〉
ホロゴン16mm F8使用時は、必ずレンズに付属のビューファインダー（GF-16mm）をご使用ください。ビューファインダーは、カメラのアクセサリーシューに止まるところまで確実に差し込みます。

1 **撮影範囲**：撮影距離により、ビューファインダーで見える範囲に対し、実際に写る範囲はおよそ図のようになります。この図を目安にして構図を決めてください。特に約1mより近距離で撮影する場合は、被写体が撮影画面からはみ出ないよう、余裕を持って構図を決めてください。

2 水準器：このホロゴン16mmF8は、超広角のためわずかな上下の傾きでも作画に大きく影響を与えます。ビューファインダーには水準器が内蔵されていますので、建築物や柱などが平行に見えるように撮影する場合は、水準器の"球"が中央になるようにして撮影してください。

〈2. ピントの合わせかた〉

ホロゴン16mmF8のピント合わせはレンズの距離レバーを手動で動かして行います。オートフォーカスにはなりません。被写体までの距離をレンズの距離指標に合わせて撮影してください。

被写体までの距離の測定（測距）には次頁の方法があります。

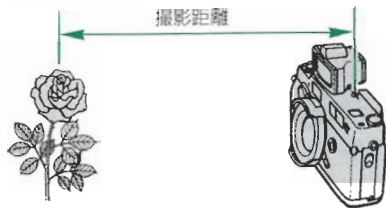
1 **目測**：目分量で距離を測ります。

2 **カメラの測距機能を利用**(∞〜約0.5mまで)：

フォーカスモードを "SAF" にして、カメラファインダー内のフォーカスフレームを被写体に向けてシャッターボタンを半押しすると、表示パネルに被写体までの距離（m）が表示されます。

- ピントが合せられない表示がでたときは、いったんシャッターボタンから指を離してください。再度シャッターボタンを半押しし、ピントが合ったことを確認してからファインダーから目を離し、距離を読み取ってください。

3 **メジャーで実測**(〜0.3mまで)：

カメラの " ⊖ " マーク（距離基準指標）から被写体までの距離を測ります。

〈3. 露出について〉

ホロゴン16mmF8の明るさは、F8（固定）です。絞りの調節はできません。

- マニュアル露出の場合は、シャッタースピードで露出を調節してください。
- ホロゴン16mmF8を取り付けると、測光方式は自動的に "外部測光" に切り替わります。

〈4. グラデーションフィルター4×について〉

ホロゴン16mmF8には、超広角レンズ特有の周辺光量低下があります。この特性を活かした撮影以外に、画面周辺まで活かした撮影をしたい場合はレンズに付属のグラデーションフィルター4×を併用します。グラデーションフィルター4×を使用するときは露出の補正を行ってください。

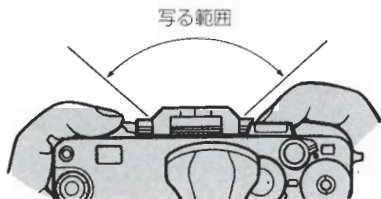
- 絞り優先オートのときは、露出補正ダイヤルを "+2" にします。
- マニュアル露出のときは、シャッタースピードを2段階遅くします。

〈5. ストロボ撮影について〉

TTLダイレクト測光によるストロボ撮影はできません。外部測光オートストロボ撮影、またはマニュアルストロボ撮影を行ってください。

- ストロボは、シンクロターミナルに接続してください。
- レンズの画角が広いため、周辺まではストロボ光が行きわたらない場合があります。

〈6. その他の注意事項〉

画角が広く、且つレンズの長さが短いため、カメラを持つ手等、余分なものが写らないよう注意してください。ケースをつけての撮影では指が写り込みやすいので、特にご注意ください。

被写界深度

レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。
この被写界深度を利用して、被写体のみを鮮明に写し背景をボカしたり、あるいは被写体も背景も鮮明に写すことができます。別記の表を参考に撮影してください。

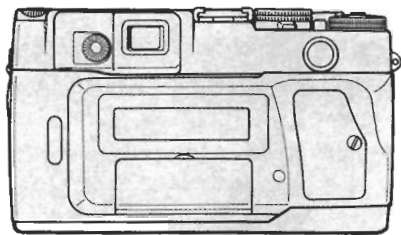
同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

1. 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く、開放にするほど浅くなります。
2. 被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
3. ピントを合わせた後方に深く、前方に浅くなります。

また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

〈被写界深度表(m)〉

レンズ	絞り値	撮影距離（m）							
		1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
Biogon T* 21mm F2.8	F4	0.8~1.3	1.0~1.6	1.1~2.2	1.4~3.5	1.8~8.7	2.4~∞	3.1~∞	4.5~∞
	F8	0.7~1.7	0.8~2.4	0.9~4.1	1.0~15	1.3~∞	1.6~∞	1.9~∞	2.3~∞
	F16	0.56~6	0.62~∞	0.7~∞	0.76~∞	0.86~∞	0.96~∞	1.1~∞	1.2~∞
Biogon T* 28mm F2.8	F4	0.9~1.2	1.0~1.5	1.2~1.9	1.5~2.9	2.0~5.7	2.8~25	3.8~∞	6.2~∞
	F8	0.8~1.4	0.9~1.9	1.0~2.8	1.2~5.3	1.6~60	1.9~∞	2.4~∞	3.1~∞
	F16	0.6~2.5	0.7~4.4	0.8~2.0	0.9~∞	1.1~∞	1.2~∞	1.4~∞	1.6~∞
Planar T* 35mm F2	F4	0.9~1.0	1.1~1.3	1.3~1.7	1.7~2.4	2.4~4.0	3.5~8.6	5.4~62	12~∞
	F8	0.87~1.2	1.0~1.5	1.2~2.0	1.5~3.0	2.0~6.0	2.7~30	3.8~∞	6.0~∞
	F16	0.8~1.4	0.9~1.9	1.0~2.9	1.2~5.7	1.5~∞	1.9~∞	2.3~∞	3.0~∞
Planar T* 45mm F2	F4	0.95~1.06	1.13~1.28	1.4~1.6	1.8~2.3	2.6~3.6	3.9~7.0	6.3~25	17~∞
	F8	0.9~1.1	1.1~1.4	1.3~1.8	1.6~2.6	2.2~4.6	3.2~12	4.6~∞	8.4~∞
	F16	0.8~1.3	1.0~1.6	1.1~2.3	1.4~3.7	1.8~10	2.3~∞	3.0~∞	4.2~∞
Sonnar T* 90mm F2.8	F4	0.99~1.01	1.18~1.22	1.47~1.53	1.95~2.06	2.9~3.1	4.6~5.4	8.6~12	60~∞
	F8	0.98~1.02	1.17~1.24	1.44~1.56	1.89~2.12	2.8~3.3	4.3~5.9	7.6~15	30~∞
	F16	0.96~1.05	1.13~1.28	1.39~1.63	1.80~2.26	2.6~3.7	3.8~7.2	6.1~25	15~∞

<CONTAX データバックGD-2 (マルチファンクションタイプ) >

コンタックスG 2 DにはこのデータバックGD-2が標準装備されています。

コンタックスG2の裏ぶたと交換して使用する、マルチファンクションタイプのデータバックです。フィルムの最初の2コマに撮影時の露出データを一括して写し込む「まとめ写し込み」機能と、それぞれのコマ間に日付けや露出データなどを写し込む「コマ間写し込み」機能があります。

併用することもできますので、「まとめ写し込み」をセットして露出データを記録し、「コマ間写し込み」で日付けや時刻あるいはカウンター数値などをコマ間に写し込み、写真の分類や露出データの保存と整理など幅広くご活用いただくことができます。また、カメラの作動をコントロールするインターバル撮影機能も搭載しています。

まとめ写し込み機能

各コマの撮影時の露出データをカメラが記憶しておいて、フィルムを巻き戻すときに、あらかじめ空送りしておいたフィルムの最初の2コマにまとめて写し込みます。

■写し込む内容：

1 フィルムを装填した日時（年・月・日・時）
2 使用カメラ “G2”
3 露出データ（露出補正値、シャッタースピード、概略F値（*）、露出モード）
4 コマの番号（5コマごと）
5 巻き戻しをした日時（年・月・日・時）

コマ間写し込み機能

フィルムコマ間に次の8つのモードから1つ選んで写し込むことができます。

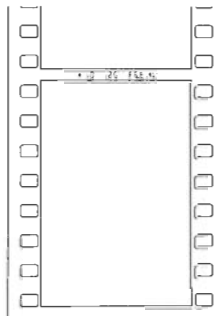
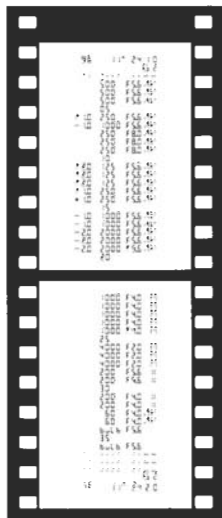
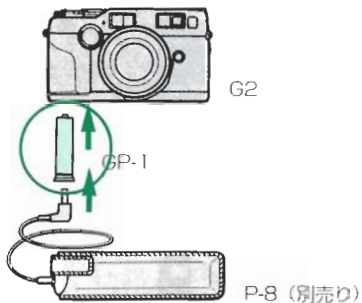
1 日付け（年・月・日）　2 日付け（月・日・年）
3 日付け（日・月・年）　4 時刻（日・時・分）
5 撮影時の露出データ（露出補正値、シャッタースピード、概略F値（*）、露出モードまたはキャラクター2文字）
6 カウンター数値（4桁の積算カウンター＋フィルムカウンター）＋キャラクター2文字
7 任意の6桁固定数値＋キャラクター2文字
8 写し込みなし

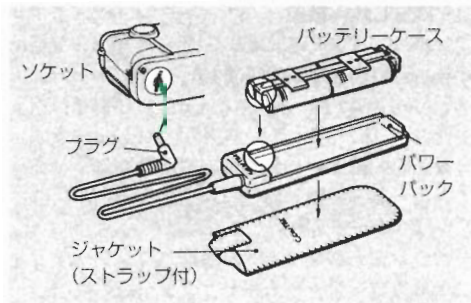
(*)「露出データ」の中の「概略F値」は、カメラの外部測光を利用して明るさを測り、その値を基にF値に換算し概略値として表示しています。F値の目安としてご使用ください。
● フィルターを取り付けたときはフィルターの露出倍数が加算された値になります。

インターバル撮影

設定した時刻より一定時間ごとに、設定した撮影回数分自動的に撮影する機能を搭載しています。時間の経過による変化を観察する撮影や無人撮影に便利です。

「まとめ写し込み」の例

「コマ間写し込み」の例

（説明のために図示したもので実際の表示とは異なります。）

〈CONTAXパワーパックアダプターGP-1〉

G2に外部電源CONTAX パワーパックP-8（別売り）を使用するためのアダプターです。
パワーパックP-8は、1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の性能低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

■取り付けかた■

1 カメラにパワーパックアダプターGP-1を取り付けます。カメラのリチウム電池を取り出し、代わりにGP-1をはめ込み、回して固定します。

2 パワーパックP-8に電池を装填します。

1 パワーパックP-8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れP-8本体に取り付けます。

2 P-8本体をジャケット（ケース）に入れます。

3 パワーパックP-8のコード先端のプラグを、アダプターGP-1のソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長期間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■P-8の仕様■

構成： パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）

コードの長さ： 1.5m

電源： 1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本（単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

■使用電池と撮影本数■

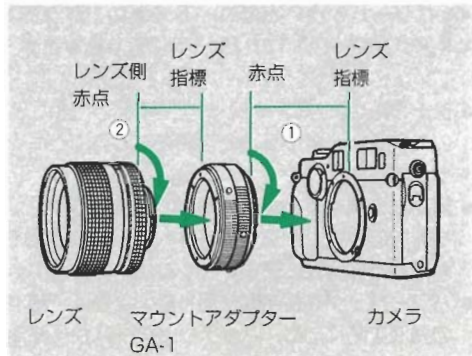
（24枚撮り、新品電池使用、当社撮影基準による）

バッテリー種類	常温
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約25本
1.2V単3形ニッカド電池4本	*約10本

*ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

※ 仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

〈CONTAXマウントアダプターGA-1〉

G2に、CONTAX一眼レフカメラ用カールツァイスレンズを取付けるためのアダプターです。
ピント合わせは、レンズの距離リングを手動で回して行います。

■取り付けかた■

1 **カメラにマウントアダプターGA-1を取付けます。**

マウントアダプターGA-1の赤点をカメラのレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向へカチッと音がして止まるまで回して取付けます。

② マウントアダプターGA-1にレンズを取付けます。

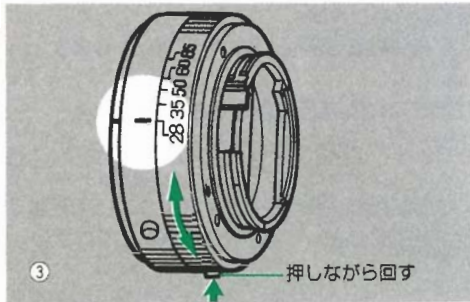
マウントアダプターGA-1のレンズ指標にレンズ側の赤点を合わせてはめ込み、①と同様に取付けます。

③ 取付けたレンズの焦点距離をマウントアダプターGA-1にセットします。

マウントアダプターGA-1のロック解除ボタンを押しながら画角リングを回し、レンズの焦点距離を画角指標に合わせてください。

合わせた焦点距離に連動して、ファインダーの画角が変わります。

セットできる画角は、焦点距離28mm、35mm、50mm、60mm、85mmのレンズです。

- マウントアダプターにない焦点距離のレンズを使用する場合は、最も近い値にセットしてください。

レンズをマウントアダプターから取りはずすときは、マウントアダプターのレンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に回して取りはずします。
マウントアダプターをカメラから取りはずすときは、カメラのレンズ取りはずしボタンを押しながらマウントアダプターを反時計方向へ回して取りはずします。

■撮影のしかた■

1 **撮影距離を測り、レンズにセットします。**

「カメラの測距機能が使用できる場合」

まず、カメラのフォーカスモードを“SAF”にし、シャッターボタンを半押しします。表示パネルに撮影距離が表示されますのでレンズの距離リングを手動で回して距離をセットしてください。

「カメラの測距機能が使用できない場合」

目測、またはメジャー等で距離を測り、レンズの距離リングを手動で回して距離をセットしてください。

※レンズの焦点距離およびレンズ外径により使用方法が変わります。詳しくは90～91ページをご覧ください。

2 構図を決め、レンズの絞りをセットして撮影します。

被写界深度を利用して確実にピントを合わせるため、レンズはF4より絞って撮影してください。
測光は、"TTL実絞り測光" になり、絞り優先オート撮影が行えます。

- ファインダーにレンズ鏡胴が見えることがありますが、実画面には現れません。

■カメラの測距機能が使用できるレンズ

レンズ焦点距離 / レンズ外径	28mm〜85mm	28mm〜85mmとは異なるレンズ
ø66mm未満のレンズ	∞〜1mの範囲で測距機能が使用できパララックスが補正されるレンズ Distagon T＊ ： 28mmF2、28mmF2.8 35mmF2.8 Tessar T＊ ： 45mmF2.8 Planar T＊ ： 50mmF1.4、50mmF1.7 ∞〜3mの範囲で測距機能が使用できパララックスが補正されるレンズ Makro-Planar T＊ ： 60mmF2.8C Sonnar T＊ ： 85mmF2.8	ファインダーの画角は取り付けたレンズの画角と異なります。 マウントアダプターの画角指標をレンズの焦点距離に最も近い値にセットして、目安としてご使用ください。 また、パララックス補正も連動しませんのでご注意ください。

※ パララックス………ファインダーで見える範囲と実際に写る範囲のズレ。視差。

● レンズ外径よりも、その外径が大きくなるフード、フィルターを装着するとカメラの測距機能が正しく作動しなくなりますので、使用しないでください。

■カメラの測距機能が使用できないレンズ

レンズ焦点距離 / レンズ外径	28mm～85mm	28mm～85mmとは異なるレンズ
ø66mm以上のレンズ	目測やメジャー等で測った距離を、フォーカスダイヤルを回して表示パネルにセットすると、パララックス補正が連動します。 ∞～1mの範囲でパララックスが補正されるレンズ：焦点距離が28mm～60mmのレンズ ∞～3mの範囲でパララックスが補正されるレンズ：焦点距離が85mmのレンズ	ファインダーの画角は取り付けたレンズの画角と異なります。 マウントアダプターの画角指標をレンズの焦点距離に最も近い値にセットして、目安としてご使用ください。 また、パララックス補正も連動しませんのでご注意ください。

● カメラにマウントアダプターGA-1とレンズを装着して使用するときは、カメラに無理な力が加わらないよう、必ずレンズ側を持って撮影してください。
また、持ち運ぶ際も、レンズ側を持って運んでください。

〈CONTAXスタンダードケースGC-21、データバック付きカメラケースGC-22〉

コンタックスGマウントのカールツァイスレンズを装着したまま収納できる速写タイプのセミハードケースです。ボディケースとフロントカバーを分離することができます。
90mmF2.8を収納できるフロントカバーロングGC-212（別売り）に交換して使用できます。

ケース	適合
スタンダードケースGC-21、 データバック付きカメラケースGC-22（G2D用）	カメラ＋ホロゴン16 mm F8＋グラデーションフィルター4×
	カメラ+ビオゴンT*21 mm F2.8＋フィルター（1枚）＋レンズキャップGK-51
	カメラ+ビオゴンT*28 mm F2.8+フィルター（1枚）＋メタルフードGG-1+メタルキャップø57 GK-54
	カメラ+プラナーT*35 mm F2+フィルター（1枚）＋メタルフードGG-1＋メタルキャップø57 GK-54
	カメラ+プラナーT*45 mm F2+フィルター（1枚）＋レンズキャップGK-41

ケース	適合
フロントカバーロングGC-212 (GC-21、GC-22に共通使用)	カメラ+プラナーT*45 mm F2+フィルター(1枚)+メタルフードGG-2+メタルキャップø57 GK-54
	カメラ+ゾナーT*90 mm F2.8+フィルター(1枚)+メタルフードGG-3(フードは逆向きにはめ込んで収納)+メタルキャップø57 GK-54

主な仕様

型式: 35mmフォーカルプレンシャッター式AFレンジファインダーカメラ
画面サイズ: 24×36mm
レンズマウント: コンタックスGマウント
シャッター型式: 電子制御式縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード: AUTO…16秒~1/6000秒、マニュアル…B、X(1/200秒)、4秒~1/4000秒
シンクロ接点: X接点(1/200秒以下で同調)、ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付
セルフタイマー: 電子式、作動時間10秒
シャッターレリーズ: 電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
焦点調節: オートフォーカス・マニュアルフォーカス切り替え式
測距方式: 基線長強化型外部パッシブ方式/赤外線アクティブ方式併用
測距検出範囲(ISO100): EV3~19(パッシブ方式)
オートフォーカスモード: SAF(シングル・オートフォーカス)、CAF(コンティニュアス・オートフォーカス)

露出制御： ①絞り優先オート ②マニュアル露出 ③ＴＴＬオートストロボ ④マニュアルストロボ

測光方式： TTL実絞り測光(中央重点平均測光)/外部測光（装着レンズにより自動切り替え）

測光連動範囲（ISO100、F2）：
TTL実絞り測光…EV1～19
外部測光…EV3～19

フィルム感度連動範囲：
DXコードによる自動設定時…ISO25～5000、
マニュアル設定時…ISO6～6400

AEロック： シャッタースピード記憶方式

露出補正： ＋2EV～－2EV（1/3ステップで設定可能）

A・B・C機構： A・B・Cレバーの設定による、露出補正幅　±0.5EV／±1EV

ストロボ調光連動方式： TTLダイレクト調光方式

ストロボ同調： 専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え

後幕シンクロ： 後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能

ファインダー： 実像式ズームファインダー（28mm～90mmの範囲で装着レンズに連動）
● 視野率90%、● 倍率0.57倍
（45mmレンズ、∞、視度－1Dのとき）

視度補正： 視度補正機構内蔵、
● 補正範囲　＋0.3D～－2D

ファインダー内表示： 撮影範囲枠（パララックス自動補正）、フォーカスフレーム、測距表示、シャッタースピード、露出マーク、露出補正表示、ストロボマーク

表示パネル： 撮影距離／フィルム感度、多重露出マーク、カスタム機能表示、バッテリー警告マーク

フィルム装填： オートローディング式
フィルムカウンター“01”までの空送り機構付

フィルム巻上げ： 内蔵モーターによる自動巻上げ

フィルム巻戻し： 内蔵モーターによる自動巻戻し（オートリターン／オートストップ機構）途中巻戻し可能

ドライブモード： 1コマ、連続（CL、CH）、セルフタイマー、多重露出

巻き上げ速度： 連続撮影（「CH」モード）最高約4コマ/秒（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

フィルムカウンター： 自動復元順算式、A·B·C表示

アクセサリーシュー： ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

カスタム機能： ①AEロックの方法、②A・B・C撮影順序の切り替え、③フィルム巻き戻し時のフィルム残り、④マニュアルフォーカス時、撮影距離の合わせかた、⑤多重露出撮影の方法

裏ぶた： 裏ぶた開放ノブによる開放式、着脱可能、フィルム確認窓付

電源： 3Vリチウム電池（CR2）2個使用

バッテリーチェック： 自動チェック式 表示パネルに表示

フィルム撮影本数： 24枚撮りフィルム約80本（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

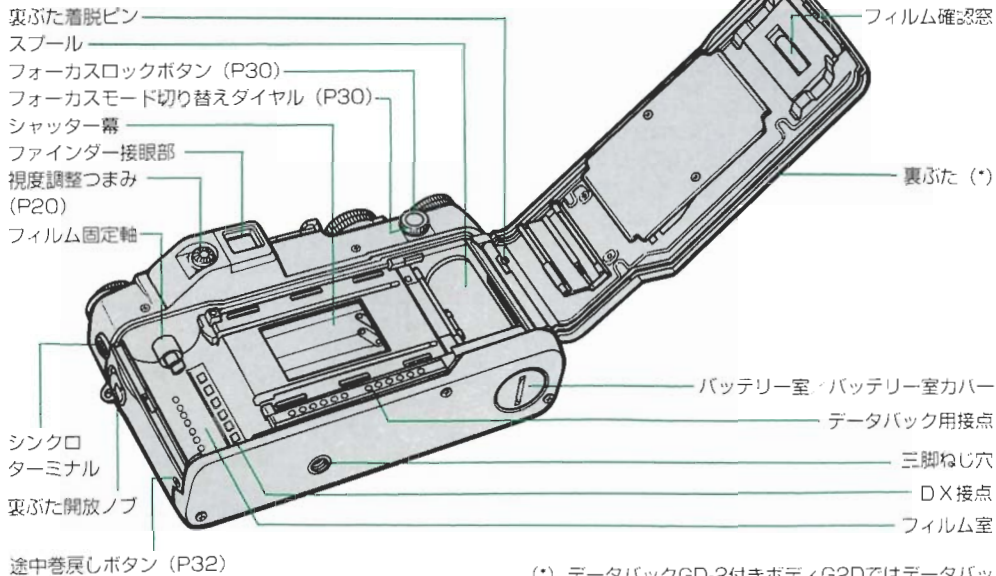
寸法、質量：

コンタックスG2： 139（幅）×80（高さ）×45（奥行き）mm、560g（本体のみ、電池別）

コンタックスG2D（データバックGD-2付き）：
139（幅）×80（高さ）×53（奥行き）mm、595g（電池別）

※仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、**交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。**コンタックス用として市販されている他社製品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

各部の名称

（*）データバックGD-2付きボディG2DではデータバックGD-2が装着されています。